



針 供 養

事八日に一年間お世話になった道具を片付け、供養する風習があるそうです。縫製工場では使えなくなったミシンの針やまち針を持って、事始めの2月8日に針供養のため広島護国神社へ行ってきました。

神 社 広島護国神社

神社へ到着してみると、色とりどりの着物で華やかな雰囲気。当日はしきたりを教えてもらうべく、勝矢和哉さんとご一緒させていただき、ご祈禱にも参列しました。



針の賛歌 昭和五十四年五月「針の像」完成記念
作詞 小田泰弘 作曲 田中元晴
編曲 田中元晴

一、黙々と役立つ
針のめぐみ
母の愛にも似て
二、君想う
熱き涙も
針はたくして
花のいのち夢みる

三、まごころの
辛せ縫い込む
永遠に光り輝く



使えなくなった針を豆腐に刺して供養します。これまで硬い布地などを刺してきた針に、最後は柔らかい所で休んでもらいたいという気持ちや、供養としての意味があるそうです。

ご祈禱の最後に歌った「針の賛歌」。針塚の建立に携わった小田さんが作詞・作曲されたものです。新聞記者をしていた小田さんがインスピレーションを得て作られたそうです。

針 塚 針のめぐみの塔

広島中央公園にあるこの塔は「針の像を実現する会」により昭和54年に建立されました。広島が和裁の町として栄えていたころ、和裁士をしていたお母さんが「針のおかげで子供を育てることができた。針への感謝を込めて針塚を作りたい。」と長年思っていたそうです。その思いを実現するため息子さんが働きかけ、建てられたのがこの針塚です。



針塚を作られた方々に偶然お会いすることができ、針塚ができるまでの話や当時の広島の様子など、いろいろなお話を聞かせていただきました。針塚を作るきっかけになったのが、武田さんのお母さんだそうです。そして、丸みのあるやさしい印象のこの塔は、彫刻家 鈴木政夫さんの作品で、角田さんのご縁から制作をお願いすることができたとのこと。針の生産や和裁で栄えていても針塚のなかった広島に、一人のお母さんの思いから素敵な針塚ができたそうです。



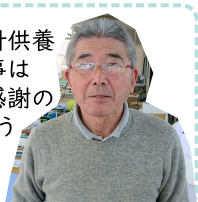
角田長三多さん 小田泰弘さん 武田忠征さん
営業：大下 営業：沖田

工場より



ワカバユニフォームとしては初めて針供養に行ってもらいました。私たちの仕事は針がないとできません。これからも感謝の気持ちを忘れず、いい仕事ができるよう工場一同がんばりたいと思います。

工場長：藤井



ワカバ ふしぎ発見!

自社工場や配送センターを持つワカバでは社員でも知らない不思議なものがあります。ワカバの『なんじゃこりゃ?』や『へえそうだったのか!!』という“もの”や“場所”を紹介します。

今回は《縫製工場》から。～その1～

工場に行ってみると、ダ〜〜とすごく大きな音。工場長が頭でっかちの重たそうな機械を使い真剣な眼差しで大きな布に向かっていきます。この細い刃の付いた変な形のこの機械、これって何?！重ねた生地をパーツごとに裁断するときを使う“裁断機”です。たくさんのパーツを一度に裁断するため、延反機で反物の生地を10枚～50枚程重ねていきます。その上に型紙を置きチャコで線を引いたあと、裁断機の出番です。刃が振動して生地を裁断していきます。

工場には2種類の裁断機があります。

右の機械は大きなパーツを裁断するときを使用します。直線やカーブを片手で操作しますが、ずっしり重たい機械なので熟練した操作技術が必要です。(写真：右)



左の機械は小さいパーツを裁断するときを使用します。生地を動かしながら裁断していきます。(写真：左)

出来上がった生地のパーツは、裁断した人の技術により縫いやすい・縫いにくいがあるそうで、細かいところまで気の届く工場長の裁断はとても縫いやすいそうです。



次回は。。。

裁断機の細部を紹介します。

生地を延ばし重ねる“延反機”

営業部 川崎伸之

サラリーマン川柳に挑戦

サラリーマン川柳に挑戦しよう!を目標に、ワカバのサラリーマンが川柳を詠みます。



営業部
大下

『寒い冬が苦手な僕ですが、それでも次こそは次こそはと爆釣を夢見て通っています。』

ボウズでも
通い続ける
冬の海

早朝の眠気にも負けず、寒さにも負けず。夢見る男のロマンですね！おすそ分けを期待して応援します！！
(ワカバ新聞係)